

今回は、植松努『好奇心を天職に変える空想教室』より紹介します。

大学を卒業したあと、ぼくは本格的に飛行機とロケットにかかわります。はじめて職場を訪ねたとき「このフロアは堀越二郎が働いていたところなんだよ」といわれました。憧れていたゼロ戦の設計者と同じフロアで仕事ができるなんて、まさにぼくの母さんがいっていたとおり「思うは招く」だと思いました。ぼくはこの仕事が好きでした。夢がかなった！と思いました。でも、5年半で辞めました。なぜなら飛行機になんにも興味のない人が、どんどん会社に入ってきたからです。彼らは新しい仕事の依頼がくるたびに、「やったことがないからできません」「勉強してないからできません」といって断り続けました。ぼくが「なんで『できない』ってばかりいうの？」と聞いてみたら、自信たっぷりに『自分には無理です』っていっておけば、楽ができるから」というんです。「おなじ給料をもらうんだったら、新しい仕事なんてやらない方が得じゃん」というんです。「だからできないふりをしなよ」と教わりました。でもぼくはせっかくのチャンスだから、いい飛行機を作りたいのです。だからがんばります。でもがんばればがんばるほど、どんどん空回りをして、まわりから浮いていきます。「よくやるわ」とさんざんかげ口をたたかれました。ぼくは、やがていい仕事ができなくなってきて、その会社を辞めることになってしまいました。そのうち、その部門はなくなりました。そして、楽をしていた人たちは、みんな仕事を失いました。やっぱり楽はしない方がいいと思いました。楽をすると“無能”になるからです。考えてみてください。能力というものは、失敗するか成功するか「経験」によって身につきます。「楽をする」ということは、つまり「その経験を避ける」ということです。だからずっと楽をしていたら、自動的に無能になって、誰からも見向きもされなくなります。もったいないです。人生の価値は、「誰にほめられるか？ いくらもらえるか？」では決まりません。「自分の給料はこれくらいだから、これくらい手を抜いておこう」なんて考えはじめたら、その通りの額面通りの人間になってしまいます。そんなものは、人生の価値じゃないです。人生の価値は、人生の時間を使って得た自分自身の経験で決まります。人生なんて一回しかない。それなのに最短コースをえらんたら、一瞬で終わっちゃうじゃないですか。いっぱい寄り道した方が得だと思いませんか。いっぱい人に出会ったらいいです。いっぱいいろんなことやったらいいです。それこそが、棺桶に入る瞬間の、自分の価値になります。一生懸命いろんな経験をしてほしいです。もしなにかに迷っちゃったときには、「自分は楽を選んでいないかどうか」だけを気をつければいい。そうしたらきつと間違えないで、今より前に進むことができると思います。

「楽すれば楽が邪魔して楽ならず 楽せぬ楽がはるか楽々」(田中真澄)

という、富山の薬売りの『七楽の教え』がある。300年以上続く富山の薬売りに、代々伝わる言葉だそう。楽をしようとするれば、その楽したことが邪魔となって、逆に「苦」となってしまう。楽をせずに、大変な道、損の道を選んだほうが、最終的には必ず自分にとって幸せな道となる。人は、一時的な気持ちのよさ、「快」を求めて、楽な道、最短の道、効率のいい道を選んでしまいがちだ。しかし、後になって考えてみると、損な道、困難な道、効率の悪い道を歩んだときの方が、はるかに自分の血肉になっていたことに気づく。「楽をすると無能になる」あえて、楽ではない道を選ぶ人でありたい

Q1: 富山の薬売りの教えは、楽をしようとするればどうなると言っていますか？

A1:( )

Q2: 楽をしてかえって苦しくなった経験はありますか？

A2:( )